

2020年2月24日

辻 俊雄・恭子 様
キミエ後見人 安部 高樹 様
岩永 隆之 弁護士 殿
西山 円・敬子 様
辻 竜也 様

前略 御免くださいませ。

書留便2月21日受領しました。

連絡が遅くなりましたが、紘二の一周忌は4月4日午前中、長延寺と決まりました。ご住職のスケジュールや円の仕事の多忙により3月にはできませんでした。お知らせまでに、

件名：令和2年2月19日 辻恭子・俊雄発書簡「ご連絡」について

2月22日は、精神障がい者家族会「どんまい」の講演会に出席しました。2月19日付の書状は23日から読み始めました。

今のところ2ページまで読みました。

【項目1】の魔物が棲んでいる発言について：

美年子の12月01日付の書状をもう一度よく読んで確認してください。

その時の話し合いの進行は、次の引用画像（書簡より）のとおりで、時系列表現されています。

<引用画像>

恭子さんの事情で、11月30日午後1時20分からの開始になりました。
席について直ぐ、横浜から送られてきた写真（息子家族がお墓参り）を見せました。（お墓は2014年7月、諫早から横浜に改葬しました。）

写真をお見せしてから、私が「おかげさまで子供たちもお墓参りして、元気で平和に暮らしている。孫の知くん（小学2年）が「お母さんは留太郎おじいさまの命日の21日には毎月お墓参りに行くようにしている。」と言っています」と知くんの言葉をそのまま伝えました。

直ぐに、斜め前に座っていた辻俊雄さんが私に向かって、「お姉さんの心には魔物が棲んでいますよ。」「孫を追い込んでますよ。」と人を裁くような声色と形相で大声を出しました。

<引用画像（続き）>

私は瞬間、何を言っているのか分かりませんでした。
夫が直ぐ、「おい！ 待て！」と制止しました。
恭子さんが直ぐに、「この人は、良く、勘違いするから、忘れてください。」と
言ってくださいました。
夫はその場を離れて、トイレに行きました。これから話し合いを始める、と言
うときに。
夫がトイレに行っている間に、私は俊雄さんに「長いこと教職に就いてらした
のに、子供たち（生徒）にもこのような物言いをされていたのですか？」と尋
ねました。
俊雄さんは「そんなことはしてません。」と、一言も詫びることなく、シラーっ
としてらっしゃいました。

話し合いの席に着いてから直ぐに美年子が言ったことに対しての俊雄君の様子を見聞きし
ていた紀男が以下に記載します。

紀男記、始め。

4人がテーブルに着き、美年子が写真を見せて穏やかに話し始めると、俊雄君がいきなり
立ち上がり、美年子の方に歩み寄りながら、「お姉さんの心には魔物が棲んでいますよ。孫
を追い込んでいますよ。」と目を吊り上げ、指差し、指差し、同じ言葉を大声で連呼した。

話し合いに入る直前の俊雄君の唐突な挙動とわめき声に、何が起ったのか、一瞬、耳を疑
った。取り敢えずその場を鎮めるのが先決と、「おい！ 待て！」と俊雄君を制止した。

俊雄君はすごすごと椅子に戻ったが、自分が何をしたのか判断できない顔付の放心した状
態で座った。

2～3分ほど無言状態の時が流れた後、恭子が「この人は、よく勘違いするから、忘れて
ください。」との弁明がありました。

しかし、俊雄君は美年子に詫びること無く無言のままであった。

この言動および態度は狂気の沙汰で、まさに「常軌を逸している。」と言わざるを得ない。

俊雄君は「魔物発言には趣旨がある」と作文しているが、時間錯誤も甚だしい。

上記の引用画像から分る如く、俊雄君の狂態の前はその趣旨に該当する発言は皆無である。

令和2年2月19日の書状に、俊雄君は魔物発言には趣旨がある、と正当化しようと、思い
浮かんだことをあれこれと屁理屈をこねています。それらは全て時間錯誤に起因した後付

けの弁解である。

この趣旨は、美年子に問題があるから魔物発言をした、と美年子の人格を否定しています。

俊雄君、ぐたぐたと何時までも弁解を繰り返すのではなく、両手を付いて、「私の失言でした。御免なさい。どうかお許してください。」とわび状を入れるのが社会人としての常識ある人のやることです。

紀男記 終り。

2019年12月1日の美年子の書状に対して2月19日の恭子・俊雄さんからの書状が届いた。魔物発言を正当化するための自己弁護がくどくどと「魔物発言には趣旨がある。」と作文されています。本当に詫びる気持ちを感じられない美年子へのバッシングです。

何故、今まで、何故、今頃、手紙が来たのか？

2018年11月30日、魔物と言われて、苦しく、辛い思いをしてきました。フラッシュバックまで出て怖い思いをしました。

今年になって、ようやく抜け出してほっとしたところでした。

また、ぶり返し、今日は、更に、魔物発言をしたのは、美年子に問題がある、と言う美年子へのバッシングです。

詫びる気持ちなど毛頭無く、魔物発言を正当化するための美年子への攻撃です。

2018年11月30日以後、俊雄さんの発言を振り返ってみると、

「美年子は魔物」、

「紀男には家を出て行った人で虫が良い」、

12月19日付の「美年子の手紙は妄想」、

2月19日付の「魔物発言の正当化」、

等々、俊雄さんこそ現実の世界では無く、魔界に居て、西山家を紀男 =>円=> 知志へとつないで行くよう「西山を保存したいとの思いが強い私を邪魔している」のでしょう。

留太郎、キミエ、恭子は、西山の家系をつないで行くことに意識が薄かったのでは、と思います。

いくら恭子・俊雄さんが攻撃しても西山の先祖様たちが美年子を守ってくださるでしょう。その証拠に、紀男は1%未満の確率の中から生還しました。

俊雄さんが記述の1ページ目の下から7行目に「西山家は分裂症の家系である、と言うことを美年子がさまざまな場面で話されていました。」との件について、

美年子は「西山家は分裂症の家系である」とは一度も公言したことはありません。
これは、昌子を診断してくださった藤沢市の三吉クリニックの三吉先生がおっしゃったことです。
美年子が西山家の家系のことを何時、何処で、誰に、どのように話したのか、証拠を提出してください。

留太郎、和子、紘二の分裂症は親戚中にも隠されていました。
キミエ 母は、最期まで美年子には何も言いませんでした。
10年くらい前に、恭子さんが美年子に「和子、紘二の二人は分裂症だ。」と教えてくださいました。

分裂症であることは、服用している薬ですぐ分ります。
昌子は、内科、婦人科、歯科に通院します。
近所の内科で風邪に罹ったとき、通常の服用薬を書いたら「対応できないので今後は来ないでください。」と言われました。
西山家の家系のことを公表する機会はどこにもありません。

分裂症であることを親、兄弟、子供、精神科以外の医師、ソーシャルワーカー、等などに隠す必要はありません。

キミエ 母から隠されていたために私がどんなに大変な思いをしたか、一冊の本にまとめたいです。
敬子さんは、知志に精神病のような症状が出た時は、直ぐに、きちんと対応することが出来ます、と言ってくれました。

精神病、精神医療について、美年子と対等に議論できるよう、俊雄さん、恭子さんが勉強されることを期待します。
インターネットや本屋さんに行くと、精神科関係の専門書も沢山あります。

杠病院、道ノ尾病院で紘二さん、和子さんの主治医、担当のソーシャルワーカーと1年に何度ほど面談をしていらっしゃったのでしょうか？ お尋ねします。

紘二さんの多剤服用に、誰も管理して無かったのでは、とびっくりしました。

それに引き換え、道ノ尾病院のソーシャルワーカーは、和子さんのことを良く見ていました。

ソーシャルワーカーは医師以上に病者に寄り添っています。 国家資格保持者です。

今日は、ここまでごめんください、俊雄さんの形相と声色のフラッシュバックが出てき
そうで手が震え始めました。これ以上、書けません。

2 ページから 8 ページは次回にします。

2022年2月24日 西山 紀男
西山美年子